

事業報告

令和3年度全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」



令和3年4月15日(金)～令和4年2月19日(土)

【参加者】福島県立猪苗代高等学校1年生
【場 所】磐梯青少年交流の家、猪苗代高校 他

○事業趣旨

オリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力等について学び、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた地域での実践活動を通して、郷土や自然に愛着をもち、新たな価値を創造する高校生を育成する。

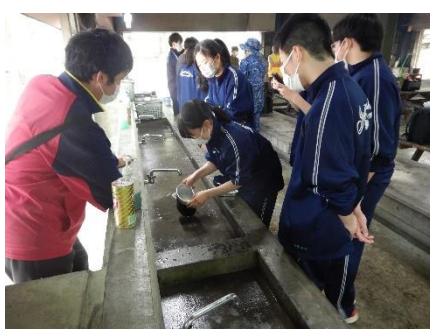
○協力団体

- ・猪苗代町青年会議所
- ・会津若松地方広域市町村圏整備組合猪苗代消防署
- ・福島県警察署
- ・自衛隊福島地方協力本部
- ・福島県立博物館
- ・磐梯山噴火記念館
- ・一般社団法人Bridge for Fukushima (BFF)



○主な活動日程

日 時	内 容	会 場
令和3年4月14日(水)	○ガイダンス ○アイスブレイク	猪苗代高校
令和3年5月7日(金)	○防災減災について課題把握①、講義・演習① 講師：福島県立博物館 学芸員 筑波 匡介 氏	猪苗代高校
令和3年5月14日(金)	○フィールドワーク① 「自然災害探究」 講師：磐梯山噴火記念館 館長 佐藤 公 氏	北塩原村裏磐梯地区
令和3年6月3日(木)	○講義・演習②「防災減災の基礎」 ○フィールドワーク①「防災減災」 ・防災炊飯	国立磐梯青少年交流の家
令和3年6月4日(金)	○フィールドワーク②「防災減災」 ・ロープワークの基礎 ○講義・演習③「防災減災」 ○振り返り①	国立磐梯青少年交流の家
令和3年6月11日(金)	○フィールドワーク③「防災減災」 ・噴火災害と地形の特徴	猪苗代町
令和3年6月18日(金)	○振り返り② ○発表①	猪苗代高校
令和3年12月17日(金)～ 令和4年2月4日(金)	○課題解決・行動計画の基礎	猪苗代高校
令和4年2月19日(土)	○発表②	猪苗代高校



○研修トピックス

【防災・減災】

<4月14日(水)>

- 1年間を通して猪苗代町の「防災」「観光」「農業」の分野について学び、猪苗代町を知り、地域の課題について探究していくプロセスを学んでいくことを共有した。
- これらの活動を通して、クラスの仲間同士のつながりや考え・意見を出しやすくする雰囲気をつくるためにレクリエーションやグループエンカウンターを実施した。

<5月7日(金)>

「防災減災について～課題把握①、講義・演習①」

福島県立博物館 学芸員 筑波 匡介 氏

- ①東日本大震災・原子力災害について
- ②災害時に高校生ができることについて(クロスロードゲーム)
 - ・ 避難所運営において、困難な意思決定の場面を課題設定し、意見の違う他者との折り合いの付け方を過去の避難所体験から学ぶ。
 - ・ 避難所運営において、リスクマネジメントについて事前に想定し、対応策を練る。



<5月14日(金)>

「フィールドワーク①」磐梯山噴火記念館 館長 佐藤 公 氏

- 「磐梯山噴火記念館」へ行き、館長から講話をいただき磐梯山噴火における災害の特徴と対策に考えることができた。その後、山体崩壊の現場調査に出かけた。

<6月3日(木)>

「講義②」～災害時の避難所運営について～

- 猪苗代町青年会議所(他4施設)より、それぞれの特性を踏まえた災害時の避難所運営について話をいただいた。

「演習②」

- HUG(避難所運営ゲーム)訓練
 - ・ 協力団体と高校生を混合にして6つのグループに分かれHUG訓練を行い、各グループでリフレクションした内容を共有した。

「フィールドワーク①」

- 防災炊飯として、自衛隊の方から指導を受けながら飯盒炊飯を行った。初めて行う飯盒炊飯に戸惑いながらも炊飯体験をすることができた。

<6月4日(金)>

- フィールドワーク②「防災減災」

- ・ ロープワークの基礎を学び、ビニールシートを用いて野営所をグループごとに作成した。実践を積むことで紐の使い方や設営に必要なスキツを身に付けることができた。

- 講義・演習③「防災減災探究」

- ・ 磐梯山登山に向けてのレクチャーを受け、フィールドの確認と安全管理について考えることができた。



<6月11日(金)>

- フィールドワーク③「防災減災の探究」

- ・ 噴火災害と地形の特徴について、登山をしながら研修指導員大竹力氏より説明を聞きくことで当時の噴火の凄まじさや噴火がもたらした影響について学ぶことができた。

<6月18日(金)>

- 防災減災についてこれまでの活動で学んだことや印象に残っていることについてまとめ、全体で発表し質疑応答を繰り返し学びを深めることができた。

○成果と課題

<成果>

- 様々な機関から講話をいただき、演習やフィールドワークを行ったことで避難所運営や災害時の行動について考えを深めることができた。「自助・公助・共助」について学ぶ良い機会となった。
- 学校側の協力により、参加した生徒は積極的に話し合う姿や学ぶ姿勢が見られた。学校では経験できないような活動ができ、生徒にとってとても貴重な体験となった。

<課題>

- 活動内容の計画、提案では、学校側の時間の確保と指導内容のすり合わせが難しく感じた。計画段階から年間計画にも入れていただき、生徒や学校の実態を踏まえ綿密な計画をする必要がある。